

## 追悼 深瀬泰旦先生

小曾戸 洋

長年日本医史学会の運営に尽力され、本会の発展に寄与された名誉会員・前常任理事の深瀬泰旦(ふかせ やすあき)先生が令和5年1月15日にご逝去された。享年93。ご葬儀は家族・近親者のみで執り行われたという。追悼文の執筆はほかに適任者がおられ、私がそれを担うのは僭越とも思えるが、会員の皆様への広報は早いほうがよいと考え、拙筆をもって責を塞がせて頂く次第である。

先生は昭和4年(1929)8月19日をもって神奈川県川崎市にお生まれになった。昭和29年(1954)に東京慈恵会医科大学を卒業、翌同30年に同大学小児科学教室に入局。昭和36年(1961)に深瀬小児科医院を開業、平成20年(2008)まで診療活動を継続された。昭和53年(1978)に小川鼎三先生の主宰する順天堂大学医史学研究室の研究生となる。小川先生は当時の日本医史学会理事長であった。平成15年(2003)には日本医史学会矢数医史学賞を受賞。翌同16年には日本医師会最高有功賞を受賞。平成27年(2015)には日本医史学会富士川游学術奨励賞を受賞された。日本小児科学会の名誉会員でもあった。代表的著書・訳書に、『天然痘根絶史』(2002年)、『わが国初めての牛痘接種 植林宗建』(2006年)、『検査を築いた人びと』(共著・1988年)、シンガー／アンダーウッド『医学の歴史』(共訳・1985年)がある。

先生の日本医史学会入会は昭和48年(1973)1月24日である。昭和56～63年(1981～1988)評議員、昭和59～平成4年(1984～1992)幹事、昭和63～平成4年(1988～1992)理事、平成4～20年(1992～2008)常任理事、平成20～23年(2008～2011)理事、平成2～12年(1990～2000)編集委員、平成12～16年(2000～2004)には編集長の重責を務められた。このほか矢数医史学賞の選考委員なども務められ、平成24年(2012)からは名誉



深瀬泰旦先生遺影  
(酒井シヅ先生傘寿祝賀会 2015年)

会員として後進の育成に参与された。

私事になるが、私は昭和56年(1981)に本会に入会して以来、約40年の長きにわたってずいぶんお世話になり、ご指導頂いた。先生は小児科専攻ということもあってか、とても温厚篤実そのものであられた。酒豪の多い日本医史学会幹部の先生達のなか、珍しくお酒はそう嗜まれず、甘党に属された。学会の懇親会後の二次会は酒豪の幹部が揃って酒場を巡るのが恒例であったが、先生は女性陣にももてもてで、甘党の店を巡られたようである。内心羨ましくもあった。温厚とはいえ『日本医史学雑誌』の編集にあたっては厳格で、妥協は容易に許さなかった。私は先生が編集委員～編集長の間、先生にお仕えした。手書き原稿がほとん



小川鼎三先生・酒井シヅ先生とともに（1980年）

どであった当時、先生は校正漏れの誤植は雑誌の権威を損なうと主張され、編集担当会社の変更を決断されたこともあった。

先生の日本医史学会への絶筆は昨年刊行をみた日本医史学会編『医学史事典』（丸善出版・2022年）の項目執筆である。編集委員会からの強い要請を甘受され、九十過ぎの高齢を推して期限通り玉稿を賜った。先生から学会への最後のプレゼントであった。その頁を開くたびに昔の思い出が募る。先生のご冥福を祈らずにはいられない。